

# 海洋安全保障情報月報

2010年3月号



## 目次

2010年2月の主要事象

### 1. 情報要約

- 1.1 海洋治安
- 1.2 軍事動向
- 1.3 海洋境界
- 1.4 外交・国際関係
- 1.5 海運・造船・港湾
- 1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

### 2. 情報分析

「グローバルコモンズ」を巡る新たな戦略構造

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2010年3月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、酒井英次、友森武久、向和歌奈  
毛利亜樹、高田祐子

---

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

## 2010年3月の主要事象

**海洋治安：**3月になって、再び、ソマリアの海賊が活動を活発化させてきた。3月には、ハイジャック事案が7件も発生した。更に、インドのダウ船が7隻もハイジャックされたとの報道もあった。しかもその活動海域は、インド洋に拡散する傾向を示している。ハイジャックには至らなかったが、ソマリアの海賊がギリシャのばら積み船を5日深夜から6日未明にかけて、インド西岸近海で襲撃する事案があった。この襲撃事案は、彼らがソマリアから遙かに離れたインド近海でも襲撃能力を持っていることを示している。

こうした、海賊の活動が活発化するに伴って、EU艦隊、NATO艦隊、合同海賊対処部隊CTF-151が、積極的な海賊対処活動を展開したのも、3月の目立った特徴であった。これらの艦隊に所属する各国海軍戦闘艦は、襲撃現場に急行して、通常「母船」と2隻の小型ボートで行動する海賊グループを捉え、海賊容疑者を尋問し、発見した武器や装備を押収すると共に、「母船」と小型ボート1隻を破壊し、もう1隻に海賊容疑者を乗せて解放する事案が10件余あった。

更に、3月の海賊事案で注目されたのは、パナマ籍船の貨物船が23日に海賊に襲撃された時、該船の武装警備チームが、襲撃した海賊に応戦し、4人を射殺した事案である。民間の警備要員が海賊容疑者を射殺したのは、恐らくこれが初めてと見られる。今後、武装警備チームの乗船の是非を巡って、論議が高まることが予想される。

**軍事動向：**中国の3日付の「新華網」の報道によれば、中国海軍の伊卓・海軍ハイテク化諮問委員会主任は、中国海軍には海外軍事基地の建設より、米空母にとっての香港のような、海外補給点が必要であると述べた。

中国は4日、2010年度国防予算が総額5,321億元、対前年度比実質7.5%増であることを明らかにした。1桁台の伸びは1989年以来である。中国では、第11期全国人民代表大会第3次大会(5日～18日開催)が開催されたが、解放軍報が報じる全人代の主要な解放軍代表の発言を紹介した。

22日付けの米紙、*The Washington Post*が報じたところによれば、グアムの18万住民は、海兵隊基地の建設に伴う、港湾、送電網、病院、ハイウェイ、公共サービス、更に現在既に不十分な上下水道システムなど、島全体のインフラに対する影響に懸念を高めているという。

韓国海軍哨戒艦、「天安」(排水量1,200トン)は26日、北方限界線(NLL)付近のペンニョン島南方海上で沈没した。原因は明らかになっていない。

**海洋境界：**24日付けのBBC Newsによれば、インドとバングラデシュ係争の島、ハリアバンガ川河口沖の無人島が、最近の衛星観測で海中に没していることが判明した。ベンガル湾の水位はこの10年間、それ以前の15年間より速いペースで上昇しており、ガンジス川河口のサンドラバンズ・デルタ地帯の他の島々も今後、同じように海面下に没する可能性があるという。

**外交・国際関係：**楊潔篪・中国外交部長は7日、国内外の記者との会見で、中日双方は東シナ海に関する双方の共同認識の精神を順守し、良好な条件を作り出し、東シナ海を「平和・友好・協力の海」としなければならない、と述べた。

インド海軍は17日から4週間にわたって、モーリシャスの水路調査を支援する。過去4年間、イ

インド海軍は、モーリシャス周辺海域で 10 回にわたる水路調査を実施してきた。

**海運・造船・港湾：**9 日付けの韓国紙、*The Korea Herald*によれば、北朝鮮は最近、ロシアに羅津港を 50 年間使用する権利を付与すると共に、中国に対して 2008 年に調印された 10 年間の同港使用权を更に 10 年間延長した。

国土交通省はベトナム交通運輸省との間で、ハノイで 9 日と 10 日の両日、「第 1 回日越分野別協議(港湾、鉄道)」と「日越港湾セミナー」を開催した。この協議で、日本側はカイメップ・チーバイ港とラックフェン港の建設や関連インフラの整備に資金を供与することで合意した。

インドの海運相が 17 日に明らかにしたところによれば、インドの港湾の貨物処理能力は、2012 年までに 15 億トンに達すると見込まれている。その内、主要 12 港だけで現在の 5 億 7,477 万トンから 10 億トンの処理能力になる。

**海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：**スウェーデンのストックホルム国際平和研究所 (SIPRI) は 1 日、夏期の数カ月間、海氷が溶けて航行可能になる北極海への進出に向けて、中国が準備を進めているとの報告書を公表した。報告書を作成した、SIPRI の研究員は、「中国は、海氷のない北極海がもたらす商業的、戦略的機会について、徐々に、だが着実に認識を高めつつある」と指摘している。

シェル社は 8 日、the Technip and Samsung Heavy Industries consortium との間で、西オーストラリア沖合での洋上 LNG 施設建造のための契約に調印した。沖合のガス田に洋上 LNG 施設を設置することで、経費の掛かる沿岸までのパイプラインや沿岸の液化施設が不要となる。

米国の地質研究所は 15 日、東南アジアの 22 区域の未発見石油・天然ガス資源調査結果を公表した。一方、オバマ大統領は 31 日、一連のエネルギー政策を発表し、大西洋岸などでの海底油田の掘削区域の拡大を承認した。

**情報分析：**近年、グローバルな安全保障環境において、「グローバルコモンズの自由」対「アクセス拒否」という対立が生じつつある。「グローバルコモンズ」とは、海洋、上空、宇宙そしてサイバー空間の 4 つを人類の共有物と看做し、それらに対する自由なアクセスを原則とする概念である。一方、「アクセス拒否」とは、国家が国益の観点から特定の明確なあるいは曖昧な形で排他的空間領域を設定し、その領域への他国のアクセスを制限し、あるいは拒否する戦略構想をいう。情報分析では、『『グローバルコモンズ』を巡る新たな戦略構造』と題して、地政学と国際政治における現実主義の視点から分析を試みた。

# 1. 情報要約

## 1.1 海洋治安

3月1日「ソマリアの海賊、サウジのタンカーをハイジャック」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, March 3, and Shiptalk, March 6, 2010)

サウジアラビア籍船の精製品タンカーが1日、アデン湾の安全回廊(IRTC)の外側でソマリアの海賊にハイジャックされた。

記事要旨：EU艦隊によれば、サウジアラビア籍船の精製品タンカー、*MT Al Nisr Al Saudi* (5,136DWT)は1日、アデン湾の安全回廊(IRTC)の外側でソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は日本からサウジのジェダに向けて航行中で、乗組員は14人、船長がギリシャ人で、他はスリランカ人である。該船は、Maritime Security Centre, Horn of Africa (MSCHOA)に登録されていなかった。該船はハイジャック時、空荷であった。ハイジャッカーは、2,000万米ドルの身代金を要求している。該船の以前の船名は「興洋丸」で、2月にギリシャの船社が日本の興洋海運から購入し、ジェダに向けて回航中であった。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=309>  
<http://www.shiptalk.com/?p=3702>

3月1～2日「NATO艦隊、海賊の母船を破壊」(NATO Allied Maritime Command Headquarters, News Release, March 3, 2010)

NATOの海賊対処任務部隊、TF-508の旗艦、デンマーク海軍駆逐艦、*HDMS Abaslon*は、1日から2日にかけて、ソマリア沿岸で、2隻の海賊の母船を発見し、破壊した。同艦による母船の破壊は、2月28日に続いて、3隻目である。

記事要旨：NATOの海賊対処作戦、Operation Ocean Shieldを遂行する任務部隊、TF-508の旗艦、デンマーク海軍駆逐艦、*HDMS Abaslon*は、1日から2日にかけて、ソマリア沿岸で、2隻の海賊の母船を発見し、破壊した。同艦は、これらの母船から海賊が使用する各種の装備や補給物資を発見し、武器処分チームが母船を破壊した。海賊容疑者は、ソマリア沿岸で解放された。同艦による母船の破壊は、2月28日に続いて、3隻目である。

NATOの海賊対処任務部隊、TF-508は現在、旗艦の*HDMS Abaslon*に加えて、米海軍フリゲート、*USS Boone*、英海軍フリゲート、*HMS Chatham*で構成されている。

記事参照：<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jan%20-%20May%202010/SNMG1%202010%2013.pdf>

3月3日「ソマリアの海賊、ケニアの漁船をハイジャック」(Reuters, March 9, 2010)

ケニアの漁船、*FV Sakoba*が3日、タンザニアのダルエスサラームの東方約400カイリの海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船を「母船」として使用する狙いと見られる

記事要旨：ケニアの東アフリカ船員支援計画のムワングラ代表によれば、ケニアの漁船、*FV Sakoba*が3日、タンザニアのダルエスサラームの東方約400カイリの海域で、ソマリアの海賊にハイ

ジャックされた。ムワングラ代表によれば、該船を「母船」として使用する狙いが見られる。該船の乗組員は、ケニア人 10 人、スペイン人 1 人、ポーランド人 1 人、カーボベルデ人 1 人、ナミビア人 1 人、セネガル人 2 人の 16 人である。該船は、2005 年以来、ケニアの操業許可を得て、ケニアとタンザニアの間の海域でケニア旗の下に操業していた。

記事参照：<http://www.finanznachrichten.de/nachrichten-2010-03/16329245-pirates-seize-kenyan-flagged-fishing-vessel-020.htm>

### 3 月 4 日「中国、第 5 次ソマリア沖派遣艦隊出航」(CCC TV.com, March 4, 2010)

中国の第 5 次ソマリア沖派遣艦隊の駆逐艦「広州」と総合補給艦「微山湖」は 4 日、海南省三亜を出航した。

記事要旨：中国の第 5 次ソマリア沖派遣艦隊は 4 日、海南省三亜を出航した。艦隊は、誘導ミサイル駆逐艦、「広州」と総合補給艦、「微山湖」で、アデン湾・ソマリア海域ですでに任務に就いている誘導ミサイル駆逐艦、「巢湖」と合流する。人員は約 800 人である。指揮官は南海艦隊の張文旦副参謀長で、派遣期間は 4 カ月間である。(艦隊は 15 日に、現地に到着し、任務を開始した。)

記事参照：<http://english.cctv.com/program/chinatoday/20100304/101123.shtml>

### 3 月 4 日「シンガポール海軍、マラッカ海峡でのタンカーに対するテロ攻撃を警告」(The Bangkok Post, March 4, 2010)

シンガポール海軍は 4 日、テロリストグループがマラッカ海峡で石油タンカーに対するテロを計画しているとの警報を出し、通航船舶に対して警戒を求めた。

記事要旨：シンガポール海軍情報集約センター (the Singapore Navy Information Fusion Centre) は 4 日、テロリストグループがマラッカ海峡で石油タンカーに対するテロを計画している、との警報を出した。また、危険物を積載した他の大型船舶も狙われる可能性を排除できないとしている。しかし、シンガポール海軍によれば、テロリストグループの目的は、恐らく広い話題性とテロ実行可能なグループであることを誇示することであろうという。シンガポール海軍は、通航船舶に対して、安全対策を強化し、警戒を怠らず、不審な状況を通報するよう、勧告している。

記事参照：<http://www.bangkokpost.com/news/asia/170431/singapore-says-terror-attacks-planned-on-oil-tankers>

#### 【関連記事】

### 「インドネシア、マラッカ海峡の哨戒活動強化」(The Jakarta Post, March 6, 2010)

インドネシアの警察と海軍は、テロ攻撃警報を受けて、マラッカ海峡の哨戒活動を強化した。また、沿岸 3 国は安全保障協力を強化している。

記事要旨：インドネシアの警察と海軍は、テロ攻撃警報を受けて、マラッカ海峡の哨戒活動を強化した。海軍は 17 隻の哨戒艦艇を配備し、警察は 3 隻の哨戒艇に対テロ特殊部隊から狙撃手を乗せて、警戒に当たっている。タンジュンピナン (Tanjung Pinang) 海軍基地の司令は 5 日、「我々は警報を真剣に受け止めており、哨戒活動の強化はこの警報に対応するものである」と語っている。同司令によれば、警報後、沿岸 3 国は安全保障協力を強化して

いる。

記事参照：<http://www.thejakartapost.com/news/2010/03/06/patrols-increased-counter-terror-threats.html>

### 3月5～7日「EU艦隊、5つの海賊グループを捕捉」(EU NAVFOR Press Release, March 5 and March 8, and Fred Fry International, March 6, 2010)

EU艦隊は5日から7日にかけて、5つの海賊グループを捕捉し、海賊の母船と小型ボートを破壊すると共に、40人以上の海賊容疑者を拘束した。

記事要旨：フランス海軍は5日朝、セイシェルとケニアのモンバサ沖との間のインド洋で、母船1隻と小型ボート2隻に乗った海賊グループを拘束した。フランス海軍のフリゲート、FS *Nivose* から発進したヘリがソマリア沿岸東方約350カイリのインド洋で、このグループを発見した。同艦の臨検チームが現場に向かっている間、海賊グループが海中に所持物を投棄しているのを視認した。現場に到着した臨検チームは、11人の海賊容疑者とロケット推進擲弾筒、乗り込み用フック付きロープや数バレルの燃料を発見した。母船と小型ボート1隻が破壊され、11人の海賊容疑者が拘束された。その後、FS *Nivose* は同じ日に、別の海域で再び母船1隻と小型ボート2隻に乗った海賊グループを発見し、11人の海賊容疑者を拘束した。

EU艦隊の発表によれば、EU艦隊の旗艦、イタリア海軍補給艦、ITS *Etna* とフランス海軍フリゲート、FS *Nivose* は、ルクセンブルグ、スペイン及びスウェーデンの海上哨戒機との協同で、5日から7日にかけて、上記2つの事案を含め、5つの海賊グループを捕捉し、海賊の母船と小型ボートを破壊すると共に、40人以上の海賊容疑者を拘束した。

以下は、フランス海軍とイタリア海軍の臨検チームによる、海賊容疑者拘束の様子である。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=312>

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=315>

<http://fredfryinternational.blogspot.com/2010/03/french-navy-catches-22-pirates.html>



FS *Nivose* boarding team and mother skiff

Source: Fred Fry International, March 6, 2010



ITS *Etna* Boarding team and skiff

Source: EU NAVFOR Press Release, March 8

### 【関連記事 1】

#### 「フランス海軍、海賊容疑者 22 人をプントランド当局に引き渡し」(Shiptalk, march 15, 2010)

フランス海軍は 13 日、海賊容疑者 22 人をソマリアのプントランド自治当局に引き渡した。これら海賊容疑者は地元の法廷に召喚される。

記事要旨：フランス海軍は 13 日、海賊容疑者 22 人をソマリアのプントランド自治当局に引き渡した。これら海賊容疑者は地元の法廷に召喚される。フランス海軍は同時に、海賊の小型ボート 2 隻と容疑者が所持していた武器を写したビデオも証拠として引き渡した。プントランド自治当局の警察幹部は、「ビデオは、海賊容疑者の目的が漁業でも、あるいはその他の一般の仕事ではないことを示している。フランス海軍は、押収した武器・弾薬を海中に投棄した」と述べた。

記事参照：<http://www.shiptalk.com/?p=3797>

### 【関連記事 2】

#### 「ドイツ海軍、別の海賊グループを拘束」(EU NAVFOR Press Release, March 14, 2010)

EU 艦隊に所属するドイツ海軍フリゲート、FGS *Emden* は 11 日、前出 5 つのグループが拘束された海域に近い海域で、母船 1 隻と小型ボート 2 隻からなる別の海賊グループを拘束した。

記事要旨：EU 艦隊に所属するドイツ海軍フリゲート、FGS *Emden* は 11 日、前出 5 つのグループが拘束された海域に近い海域で、母船 1 隻と小型ボート 2 隻からなる別の海賊グループを拘束した。EU 艦隊のルクセンブルグ派遣の哨戒機がこの母船を発見し、FGS *Emden* に通報した。FGS *Emden* が現場海域に近づくと、小型ボート 2 隻が逃亡を図り、梯子やフックなどの海賊の道具類を海中に投棄した。FGS *Emden* の艦載ヘリが逃亡を阻止し、臨検チームが派遣された。FGS *Emden* は、海賊容疑者全員を母船に戻し、小型ボート 1 隻を破壊し、もう 1 隻を証拠として押収した。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=325>

#### 3 月 5 日「ソマリアの海賊、ノルウェーのタンカーをハイジャック」(BBC News, March 5, and Shiptalk, March 6, 2010)

マーシャル諸島籍船のノルウェーのタンカーが 5 日、マダガスカル沖のインド洋で、ソマリアの海



賊にハイジャックされた。

記事要旨：ソマリアの海賊は5日、マダカスカル沖のインド洋で、マーシャル諸島籍船のノルウェーのタンカー、MT *UBT Ocean* (9,224DWT) をハイジャックした。該船は、原油を積んでアラブ首長国連邦からタンザニアに向かっていた。該船の乗組員は21人で、全てミャンマー人である。このハイジャックは、フランス海軍がソマリア沿岸東方約350カイリのインド洋で、11人の海賊容疑者を拘束してから、数時間後の事案である。(前出記事参照。)

記事参照：<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/8552887.stm>  
<http://www.shiptalk.com/?p=3697>

### 3月5日「ソマリアの海賊、インド西岸近海でギリシャ船襲撃」(Trade Winds, March 8, 2010)

ギリシャの船社所有のばら積み船が、5日深夜から6日未明にかけて、インド西岸近海で海賊に襲撃された。襲撃態様はソマリアの海賊による襲撃の特徴を示しており、この襲撃事案は、彼らがソマリアから遙かに離れたインド近海でも襲撃能力を持っていることを示している。

記事要旨：ギリシャの船社所有で、マルタ籍船のばら積み船、MV *Melina 1* (27,500DWT) は5日深夜から6日未明にかけて、海賊に襲撃された。海賊は12時間にわたり、該船を追跡し、何度も乗り込もうとした。ギリシャの船社によれば、襲撃には2隻の小型ボートと3隻の母船が関わっていたが、発砲はなかったという。該船の乗組員は、ウクライナ人とフィリピン人の計23人で、負傷者はなかった。該船は、ウクライナからインドのパラディプ(東岸)に向け航行中で、襲撃事案が発生したのは、インドのケララ州西岸約150カイリのラクシャドウィープ島西方200カイリの海域であった。インド海軍と沿岸警備隊は通報を受け、艦艇、ヘリ、特殊部隊を派遣し、該船を護衛した。現場海域で海賊容疑者を発見できなかったが、襲撃態様は、ソマリアの海賊による襲撃の特徴を示している。ソマリアの海賊による襲撃であるとすれば、この襲撃事案は、彼らがソマリアから遙かに離れたインド近海でも襲撃能力を持っていることを示している。

記事参照：購読者のみアクセス可能。

### 3月7日「ソマリアの海賊、タイの漁船を解放」(CNN, March 7, 2010)

ソマリアの海賊は7日、2009年10月29日にハイジャックしたタイの漁船を解放した。身代金額は不明である。

記事要旨：ソマリアの海賊は7日、タイの漁船、FV *Thai Union 3* を解放した。身代金が支払われたが、金額は不明である。該船は2009年10月29日、セイシェル北方200カイリ、ソマリア沿岸650カイリの海域でハイジャックされ、ソマリアのハーラーデーレで拘束されていた。

記事参照：<http://edition.cnn.com/2010/WORLD/africa/03/07/somalia.thailand.pirates/index.html>

### 3月10日「サウジアラビア、Djibouti Code of Conduct に調印」(IMO Press Briefing, March 10, 2010)

サウジアラビアは10日、アフリカ諸国とアラブ諸国間の海賊対策に関する地域協定、Djibouti Code of Conduct に調印した。

記事要旨：サウジアラビアは10日、Djibouti Code of Conduct に調印した。Djibouti Code of Conduct

は、アフリカ諸国とアラブ諸国間の海賊対策に関する地域協定で、正式名称は、the Code of Conduct on the Suppression of Piracy and Armed Robbery against Ships in the Western Indian Ocean and the Gulf of Aden で、サウジアラビアは 13 番目の調印国となった。

記事参照：[http://www.imo.org/Newsroom/mainframe.asp?topic\\_id=1859&doc\\_id=12603](http://www.imo.org/Newsroom/mainframe.asp?topic_id=1859&doc_id=12603)

### 3 月 10 日「NATO、海賊対処作戦を 2012 年末まで延長」(NATO, Weekly press briefing, March 10, and NATO Allied Maritime Command Headquarters, News Release, March 10, 2010)

NATO は 10 日、海賊対処作戦、Operation Ocean Shield を 2012 年末まで延長することを決定した。現在の活動期間は 2010 年 8 月末までである。

記事要旨：NATO 報道官が 10 日に明らかにしたところによれば、NATO は、海賊対処作戦、Operation Ocean Shield を 2012 年末まで延長することを決定した。現在の活動期間は 2010 年 8 月末までである。この決定は、NATO の海賊対処活動が船舶航行の安全とハイジャック成功率の低下に大きく貢献している、との評価に基づいている。

NATO の海賊対処派遣部隊は 10 日、the Standing NATO Maritime Group 1 から the Standing NATO Maritime Group 2 に交代した。これに伴って、Operation Ocean Shield 任務部隊、TF-508 は、旗艦の英海軍フリゲート、HMS *Chatham* 以下、米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Cole*、トルコ海軍フリゲート、TCG *Gelibolu*、ギリシャ海軍フリゲート、HS *Limnos*、イタリア海軍フリゲート、ITS *Scirooco* から構成される。

記事参照：[http://www.nato.int/cps/en/natolive/opinions\\_62136.htm](http://www.nato.int/cps/en/natolive/opinions_62136.htm)

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jan%20-%20May%202010/SNMG%20Operational%20Handover12Mar10.pdf>

### 3 月 11 日「武装強盗、マレーシア沖でケミカル・タンカーを襲撃」(ReCAAP ISC, March 11, 2010)

ナイフを持った人数不明の武装強盗が 11 日、マレーシアのタンジュン・アヤム南西約 2.6 カイリ沖に停泊中のオランダのケミカル・タンカーに船尾から乗り込み、エンジンの予備部品を盗んで退去した。また、20 日には、マルタ籍船のタンカーがタンジュン・アヤム南西沖で停泊中にナイフを持った 5 人の武装強盗に乗り込まれたが、被害はなかった。ReCAAP ISC によれば、この 5 週間にタンジュン・アヤム周辺で襲撃が起きたのは 3 度目で、警戒を呼びかけている。

記事要旨：ReCAAP ISC によれば、ナイフを持った人数不明の武装強盗が 11 日、マレーシアのタンジュン・アヤム南西約 2.6 カイリ沖に停泊中のオランダのケミカル・タンカー、MT *SP Athens* (8,828DWT) に船尾から乗り込み、見張りの船員を機関室に閉じこめ、エンジンの予備部品を盗んで退去した。ReCAAP ISC によれば、この 1 カ月間にタンジュン・アヤム周辺で襲撃が起きたのは 2 度目である。1 度目は 2 月 13 日に、コンテナ船、MV *Theodor Storm* (2,500TEU) が 5 人の武装強盗に襲撃された事案で、強盗は何も取らずに退去した。ReCAAP ISC は、同海域に停泊する船舶の船長と乗組員に、予防策をとり、警戒を怠らないよう勧告している。MV *Theodor Storm* 襲撃事案のように、疑わしい人物による乗り込みを素早くに察知することが一番の阻止策となる、と ReCAAP ISC は強調している。

記事参照：[http://www.recaap.org/incident/pdf/incident/2010/Incident%20Alert%2011%20March%202010%20\(SP%20Athens\).pdf](http://www.recaap.org/incident/pdf/incident/2010/Incident%20Alert%2011%20March%202010%20(SP%20Athens).pdf)

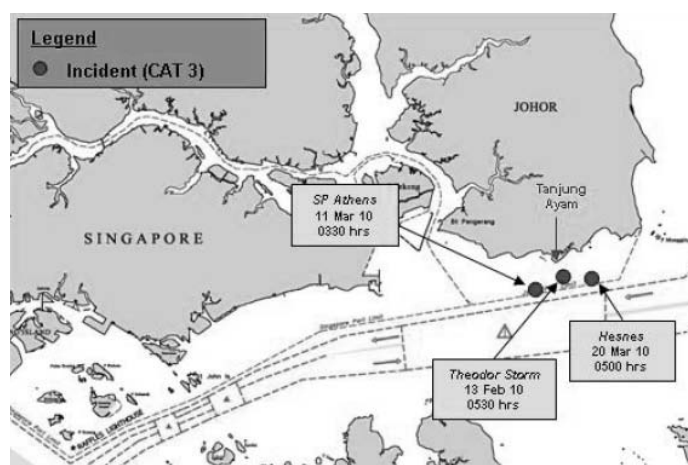
## 【関連記事】

## 「武装強盗、マレーシア南端沖で5週間に3隻目の強盗襲撃」(ReCAAP ISC, March 20, 2010)

マルタ籍船のタンカーは20日未明、マレーシア南端のタンジュン・アヤム南西沖で停泊中にナイフを持った5人の武装強盗に乗り込まれたが、乗組員に負傷者はなく、盗まれた物もなかった。

記事要旨：マルタ籍船のタンカー、MT *Hesnes* (68,1752DWT) は20日未明、マレーシア南端のタンジュン・アヤム南西沖で停泊中にナイフを持った5人の武装強盗に乗り込まれた。乗組員がこれを発見し、警報を鳴らしたところ、強盗は小型ボートで逃亡した。乗組員に負傷者はなく、盗まれた物もなかった。

記事参照：[http://www.recaap.org/incident/pdf/incident/2010/Incident%20Alert%2020%20Mar%2010%20\(Hesnes\).pdf](http://www.recaap.org/incident/pdf/incident/2010/Incident%20Alert%2020%20Mar%2010%20(Hesnes).pdf)



A map showing the location of the three incidents

Source: RICAAP ISC, March 20, 2010

### 3月13日「スウェーデン海軍コルベット、ソマリア沖に向け出航」(EU NAVFOR Press Release, March 17, 2010)

スウェーデン海軍のコルベット、HMS *Carlskrona* は13日、ソマリア沖に向け出航した。同艦は、EU艦隊の次期旗艦に予定されている。なお、スウェーデンの沿岸警備隊は3月から4カ月間の予定で、DASH-8Q-300海上哨戒機1機をセイシェルに派遣している。

記事要旨：スウェーデン海軍のコルベット、HMS *Carlskrona* は13日、ソマリア沖に向けスウェーデン南部のカールスクローナ基地を出航した。同艦は、イタリア海軍フリゲートの後を継いでEU艦隊の次期旗艦に予定されている。同艦は、4月中旬にアデン湾に到着する予定で、到着後、正式に指揮官の交代が行われる。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=326>



On March 13, the next Flagship of EU NAVFOR Somalia - Operation Atalanta, the Swedish Warship HMS *Carlskrona*, departed from Karlskrona in the south of Sweden.

Source: EU NAVFOR Press Release, March 17, 2010

### 3月16日「ソマリアの海賊、シンガポール船を解放」(BBC News, March 16, 2010)

ソマリアの海賊は16日、2009年11月16日にハイジャックしたバージン諸島籍船のケミカル・タンカー、MT *Theresa VIII* (22,294DWT) を解放した。身代金は約350万米ドルといわれる。

記事要旨：ソマリアの海賊は16日、シンガポールの船社が運航するバージン諸島籍船のケミカル・タンカー、MT *Theresa VIII* (22,294DWT) を解放した。該船の乗組員は28人の北朝鮮船員で、2009年11月16日にケニアのモンバサに向かう途中のソマリア沿岸でハイジャックされた。身代金は約350万米ドルといわれる。

記事参照：<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/8570243.stm>

### 3月17日「インド国防相、海事情報ネットワークに漁師を組み込む必要性強調」(Sify News, March 17, 2010)

インドのアントニー国防相は17日、海事情報ネットワークに漁師を組み込む必要性を強調した。

記事要旨：インドのアントニー国防相は17日、沿岸警備隊の巡視船の就役式典で、海事情報ネットワークに漁師を組み込む必要性を強調して、「漁師は、我々の耳目として、沿岸の安全保障態勢に関与していく必要がある」と述べた。国防相は更に、特に大陸棚の境界確定やEEZ内における資源開発に鑑み、沿岸警備隊の重要性が高まっており、その哨戒海域も拡大してきている、と指摘した。

記事参照：<http://sify.com/news/include-fishermen-in-coastal-security-antony-news-national-kdro-Ocebifh.html>

### 3月17日「オランダ海軍、インド洋で海賊容疑者を拘束」(EU NAVFOR Press Release, March 17, 2010)

EU艦隊のオランダ海軍フリゲートは17日、インド洋で急接近してきた海賊と見られる小型ボート2隻に遭遇し、海賊容疑者10人を一時拘束したが、その後解放した。

記事要旨：EU艦隊に所属するオランダ海軍フリゲート、HNLMS *Tromp* は17日、インド洋で急接近してきた海賊と見られる小型ボート2隻に遭遇した。HNLMS *Tromp* は、ボートに威

嚇射撃を行い、狙っているのが軍艦だということを警告した。同艦は艦載ヘリを発進させ、海賊容疑者を拘束した。スウェーデンの哨戒機も現場海域に飛来し、小型ボートの母船と見られる船を捜索した。小型ボートからは、弾薬と数丁のロケット推進擲弾筒が発見された。捜索終了後、海賊容疑者 10 人は一時軍艦に拘束されたが、その後小型ボートの 1 隻に乗せられ解放された。HNLMS *Tromp* は、母船と小型ボート 1 隻を破壊し、事件をセイシェル沿岸警備隊に通報した。EU 艦隊は、この事案で、過去 2 週間に 11 の海賊グループを拘束したことになる。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=327>



HNLMS *Tromp* arrests Somali pirates

Source: Netherlands Ministry of Defense

[http://www.defensie.nl/marine/missies/nieuws/wfp/2010/03/17/46149951/Fregat at pakt opnieuw Somalische piraten](http://www.defensie.nl/marine/missies/nieuws/wfp/2010/03/17/46149951/Fregat%20at%20pakt%20opnieuw%20Somalische%20piraten)

### 【関連記事】

#### 「オランダ海軍、12 人の海賊容疑者を拘束、その後釈放」(Herald Sun, March 29, 2010)

オランダ海軍フリゲート、HNLMS *Tromp* は 29 日にも、ソマリア沿岸沖で母船と 2 隻の小型ボートからなる海賊グループを警告射撃で停船させ、12 人の海賊容疑者を拘束したが、証拠不十分で釈放した。

記事要旨：オランダ海軍フリゲート、HNLMS *Tromp* は 29 日、ドイツ海軍哨戒機からの通報で、ソマリア沿岸沖で母船と 2 隻の小型ボートからなる海賊グループを追跡した。海賊グループから 8 カイリに迫った時、同艦を商船と誤認した海賊グループが襲撃してきたが、軍艦と分かって、武器や梯子などを海中に投棄しながら逃亡を図った。同艦は警告射撃で停船させ、海兵隊が臨検に向かい 12 人の海賊容疑者を拘束した。その後、海賊行為の具体的な証拠が不十分なことから、12 人を母船に乗せて、ソマリアに送り返し、2 隻の小型ボートを破壊した。

記事参照：<http://www.heraldsun.com.au/news/breaking-news/somali-pirates-mistakenly-attack-dutch-warship/story-e6frf7jx-1225846679092>

#### 3 月 21 日「ケニア、初めてソマリアの海賊容疑者を拘束」(Reuters, March 21, 2010)

ケニアの治安部隊は 21 日、ケニア領海内でソマリアの海賊容疑者 11 人を拘束した。ケニアによる海賊容疑者の拘束はこれが初めてである。

記事要旨：ケニアの治安部隊は 21 日、ケニア領海内でソマリアの海賊容疑者 11 人を拘束した。治安

当局によれば、彼らは漁船のハイジャックに失敗した後で、当局は所持していた銃器を押収した。ケニアによる海賊容疑者の拘束はこれが初めてである。

記事参照：[http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/international/2010/March/international\\_March862.xml&section=international&col](http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/international/2010/March/international_March862.xml&section=international&col)

### 3月22日「インドネシア・フィリピン、国境周辺海域の哨戒活動強化で合意」(Antara News, March 22, 2010)

インドネシアとフィリピン両国は22日、武器の密輸やテロ対処のために、両国国境周辺の海域における哨戒活動を強化することに合意した。

記事要旨：インドネシアとフィリピン両国は22日、武器の密輸やテロ対処のために、両国国境周辺の海域における哨戒活動を強化することに合意した。インドネシアのスハルトノ（ADM Agus Suhartono）海軍参謀総長は、「両国は4月に、武器の密輸やテロ対処のために、合同哨戒を実施する」と語った。同参謀総長によれば、インドネシア人を乗せたフィリピン籍船がモルッカ海北部沿岸地域で、同地域の海産物と交換するために生活必需品を運んでいる。彼らはしばしば武器密輸にも関わっているが、発見しても海中に武器を投棄するため、武器の密輸を現行犯で捕捉することは困難である、と同参謀総長は語っている。

記事参照：<http://www.antara.co.id/en/news/1269276289/ri-philippine-navies-to-step-up-sea-patrols>

### 3月23日「スペイン海軍、ソマリア沿岸で海賊容疑者を拘束」(EU NAVFOR Press Release, March 24, 2010)

EU艦隊に所属するスペイン海軍のフリゲートは23日、ソマリア沿岸で母船と2隻の小型ボートを臨検し、母船を破壊し、6人の海賊容疑者を拘束した。この海賊容疑者は、パナマ籍船の貨物船を襲撃し、該船の武装警備チームの応戦で撃退され、逃亡しようとしていた。武装警備チームの応戦で、4人が死亡した。

記事要旨：パナマ籍船の貨物船、MV *Almezaan* は23日、ソマリアのモガディシュに向けて航行中、ソマリア沿岸で海賊に襲撃された。該船の武装警備チームが応戦し、最初の襲撃を撃退した。海賊は追跡を続けたが、撃退され、逃亡した。該船の救難信号を受けてEU艦隊に所属するスペイン海軍のフリゲート、ESPS *Navarra* が現場海域に向かい、艦載ヘリを発進させ、母船と2隻の小型ボートを警告射撃で停船させ、臨検チームが臨検した。1隻目の小型ボートから3人の海賊容疑者が、2隻目から3人がそれぞれ発見され、2隻目からは4人の死体も発見された。死体はフリゲートに移され、検査の結果、小口径銃による死亡と判明した。母船は破壊され、6人の海賊容疑者が拘束された。

この6人は25日、MV *Almezaan* の船長が彼らを襲撃者と特定することを拒否したために、小型ボートに乗せられて釈放された。(The New York Times, March 25, 2010)

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=334>



Pirate mother ship destroyed

Source: Fairplay Daily News, March 24, 2010

## 【関連記事】

## 「武装警備チーム、海賊容疑者を射殺」(BBC News, March 24, 2010)

パナマ籍船の貨物船、MV *Almezaan* に乗船の武装警備チームは、該船を襲撃した海賊容疑者に応戦し、4人を射殺した。民間の警備要員が海賊容疑者を射殺したのは、恐らくこれが初めてと見られる。

記事要旨：パナマ籍船の貨物船、MV *Almezaan* に乗船の武装警備チームは、該船を襲撃した海賊容疑者に応戦し、4人を射殺した。民間の警備要員が海賊容疑者を射殺したのは、恐らくこれが初めてと見られる。IMB を含む、幾つかの国際組織は、武装した民間警備要員の雇用に懸念を示してきた。MV *Almezaan* は、この1年間に3度もソマリアの海賊に襲撃されており、2009年11月7日にはアデン湾でハイジャックされ、12日間にわたって拘束されている。

記事参照：<http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/8584604.stm>

Pirates have targeted the MV *Almezaan* three times in the past year

Source: BBC News, March 24, 2010

### 3月23日「ソマリアの海賊、1日で2隻の船舶をハイジャック」(EU NAVFOR Press Release, March 23, 2010)

ソマリアの海賊は23日、1日で2隻の船舶をハイジャックした。バミューダ籍船の冷凍船は、エジプトからイランに向け航行中、オマーン沿岸のマゼラ島南方180カイリの海域でハイジャックされ

た。もう1隻はマルタ籍船のばら積船で、ソマリア北部沿岸から約1,000カイリ離れたインド洋でハイジャックされた。この海域は、ソマリアよりもインドに近く、EU艦隊の通常の哨戒海域からも約400カイリ離れていた。

記事要旨：ソマリアの海賊は23日、1日で2隻の船舶をハイジャックした。バミューダ籍船で、バージン諸島の船社所有の冷凍船、MV *Talca* (11,055DWT) は、エジプトからイランに向け航行中、オマーン沿岸のマゼラ島南方180カイリの海域でハイジャックされた。該船は、安全回廊 (IRTC) を抜けたあとだった。乗組員は25人で、スリランカ人23人、フィリピン人1人、シリア人1人である。

もう1隻はマルタ籍船でトルコの船社所有のばら積船、MV *Frigia* (35,246DWT) でソマリア北部沿岸から約1,000カイリ離れたインド洋でハイジャックされた。この海域は、ソマリアよりもインドに近く、EU艦隊の通常の哨戒海域からも約400カイリ離れていた。該船は、エジプトからタイに向かって航行中であつた。乗組員は21人で、トルコ人19人、ウクライナ人2人である。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=332>



MV *Frigia*

Source: <http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=971611>

### 3月29日「ノルウェー・インドネシア、マラッカ海峡の安全強化で合意」(The Norwegian Embassy in Indonesia, Press Release, March 29, 2010)

ノルウェーとインドネシアは29日、マラッカ海峡のスマトラ側沿岸沖における航行船舶監視システムの建設や捜索救難態勢の強化に対して、ノルウェーが約1,500万米ドルを支援することに合意した。

記事要旨：ノルウェーとインドネシアは29日、マラッカ海峡のスマトラ側沿岸沖における航行船舶監視システムの建設に対して、ノルウェーが支援することに合意した。マラッカ海峡の安全強化に関する両国の合意の狙いは、マラッカ海峡北部の沿岸域の安全を強化すると共に、この海域の捜索救難態勢を強化することにある。計画の総額は、ノルウェーからのローンと贈与で約1,500万米ドルと見込まれている。

記事参照：[http://www.norway.or.id/Norway in Indonesia/Society--Policy/Press-Release---Indonesia and Norway to cooperate on improving maritime security in Malacca straits/](http://www.norway.or.id/Norway%20in%20Indonesia/Society--Policy/Press-Release---Indonesia-and-Norway-to-cooperate-on-improving-maritime-security-in-Malacca-straits/)



### 3月29日「ソマリアの海賊、パナマ籍船をハイジャック」(EU NAVFOR Press Release, March 29, 2010)

パナマ籍船のローロー船が29日、イエメンのアデン港沖10カイリの海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は各種の機械装備などを積んで、アラブ首長国連邦のジェベルアリ (Jebel Ali) に向かっていた。

記事要旨：ソマリアの海賊は29日、イエメンのアデン港沖10カイリの海域でパナマ籍船のローロー船、MV *Iceberg 1* (4,500DWT) をハイジャックした。該船は各種の機械装備などを積んで、アラブ首長国連邦のジェベルアリ (Jebel Ali) に向かっていた。該船の乗組員は、イエメン人、インド人、ガーナ人、スーダン人、パキスタン人及びフィリピン人の24人である。

記事参照：<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=337>



MV *Iceberg 1*

Source: Fairplay Daily News, March 29, 2010

### 3月29～30日「海賊の母船を破壊、27人の人質解放—セイシェル沿岸警備隊」(France 24.com, March 30, 2010)

セイシェル沿岸警備隊巡視船は29日から30日にかけて、セイシェル南東沖で27人の人質を救出すると共に、母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループを攻撃し、小型ボート1隻を撃沈し、母船を爆発、炎上させた。もう1隻の小型ボートは逃亡を図った。

記事要旨：セイシェル沿岸警備隊巡視船は29日、セイシェル南東沖で母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループを発見した。このグループは、6人のセイシェル漁民と21人のイラン人漁民を人質とし、ハイジャックしたイランのダウ船を曳航していた。巡視船は、27人の人質がダウ船のデッキに拘束されているのを発見し、警告射撃の後、攻撃を決意し、ダウ船の機関室を銃撃した。1人が銃撃で腕に怪我をしたが、人質全員が海に飛び込み、救出された。その数時間後、巡視船は、母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループに攻撃されたが、小型ボート1隻を撃沈し、母船を爆発、炎上させた。もう1隻の小型ボートは逃亡を図った。海賊の行方は不明である。

記事参照：<http://www.france24.com/en/20100330-seychelles-coastguard-destroys-two-pirate-boats>

### 3月31日「米海軍戦闘艦、海賊容疑者11人を拘束後、釈放」(U.S. Navy News Stand, April 2, 2010)

シエラレオネ籍船のタンカーが31日、セイシェル北西約500キロの海域で、母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループに襲撃された。CTF-151の旗艦、米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Farragut* (DDG 99)の臨検チームが11人の海賊容疑者を拘束した。調査の後、11人の海賊容疑者は2隻の小型ボートに乗せて釈放され、母船は破壊された。

記事要旨：シエラレオネ籍船のタンカー、MV *Evita* は31日、セイシェル北西約500キロの海域で、母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループに襲撃された。海賊は、ライフルとロケット推進擲弾筒を発射して該船を停船させようとしたが、該船はBMP ('Best Management Practices')に基づいて速度を上げながら回避行動を取ると共に、付近の船舶に照明弾で警告し、クアラルンプールのIMB PRCとドバイのUKMTOに通報した。EU艦隊に所属するスウェーデンの海上哨戒機が海賊グループを捕捉し、合同海賊対処部隊、CTF-151の旗艦、米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Farragut* (DDG 99)から発進した艦載ヘリが追跡し、同艦の臨検チームが3隻のボートに乗っていた11人の海賊容疑者を拘束した。臨検チームが到着する前に、彼らが梯子や武器類を海中に投棄するのが、哨戒機から視認された。11人の海賊容疑者は新たな襲撃を実行する手段を持っていないことが確認された後、2隻の小型ボートに乗せて釈放され、母船は積んでいた燃料と共に破壊された。以下は、その時の様子である。

記事参照：[http://www.navy.mil/search/display.asp?story\\_id=52370](http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=52370)



Source: Left: MINDEF, Singapore, April 1, 2010

Right: <http://www.navy.mil/management/photodb/photos/100331-N-8959T-308.jpg>

### 3月31日「ソマリアの海賊、ドバイ籍船をハイジャック」(The Times of India, March 31, 2010)

ソマリアの海賊は31日、ドバイ籍船の貨物船をモガディシュ港外でハイジャックした。

記事要旨：ソマリアの海賊は31日、ドバイ籍船の貨物船、MV *Al-Barari* をモガディシュ港外でハイジャックした。該船は、ドバイからの積み荷を降ろし、港外に錨泊していた。該船には、11人のインド人が乗っていた。

記事参照：<http://timesofindia.indiatimes.com/india/Somali-pirates-hijack-another-vessel-11-Indians-held-hostage/articleshow/5748032.cms>

### 3月31日「トルコ海軍、9人の海賊容疑者を拘束」(Bosphorus Naval News, April 1, 2010)

NATO艦隊に所属するトルコ海軍のフリゲートは31日、アデン湾の安全回廊(IRTC)内で9人の海賊容疑者を拘束した。これで、トルコ海軍が拘束した海賊容疑者は累計53人になった。

記事要旨：NATO 艦隊に所属するトルコ海軍フリゲート、TCG *Gelibolu* は 31 日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) 内で、疑わしい行動をする小型ボートを発見した。同艦が節季シーレーン、警告を発したが、逃亡を企てたので、ボートと乗っていた 9 人の海賊容疑者を拘束した。これで、トルコ海軍が拘束した海賊容疑者は累計 53 人になった。

記事参照：<http://turkishnavy.blogspot.com/2010/04/tcg-gelibolu-captures-9-pirates.html>

### 3 月 31 日「東アフリカ沿岸で 7 隻のインドのダウ船ハイジャックか、インド、ダウ船の航行を禁止」(VOA News, March 31, 2010)

インドのムンバイ海運総局はこのほど、小規模な海運業者に対して、東アフリカ沿岸でのダウ船の航行を禁止することを指示した。これらのダウ船は、テロ組織の支配する港での密貿易に関与しているといわれる。

記事要旨：インドのムンバイ海運総局 (the Directorate General of Shipping in Mumbai) はこのほど、小規模な海運業者に対して、東アフリカ沿岸でのダウ船の航行を禁止することを指示した。これらのダウ船は、テロ組織の支配する港での密貿易に関与しているといわれる。この指示は、97 人のインド人が乗った 7 隻のダウ船がセイシェル沖と東アフリカ沿岸で行方不明となり、ハイジャックされたと見られる事案があったことを受けて、発出されたものである。7 隻のダウ船は、いずれもインドのグラジャート州内の幾つかの港を拠点とする、400 トンのダウ船である。これらのダウ船は、ソマリアの反政府勢力が支配するキスマヨ港に寄港していたと報じられている。インド海軍によれば、海運業者は、この海域への航行を禁止されることを恐れて、更には乗組員の安全を考えて、当局に通報することを躊躇しているという。ダウ船は、グラジャート州内の海運業者が東アフリカ沿岸とアラビア半島との間の海上輸送に、一世紀以上にわたって使用してきた船である。

記事参照：<http://www1.voanews.com/english/news/asia/Hijacked-Indian-Vessels-Put-Focus-on-Illicit-Maritime-Trade--89592857.html>



A typical dhow operating in the Indian Ocean

Source:

<http://www1.voanews.com/english/news/asia/Hijacked-Indian-Vessels-Put-Focus-on-Illicit-Maritime-Trade--89592857.html>

## 1.2 軍事動向

### 3月2日「東チモール、フリゲート用臨時泊地の建設承認」(Macau Hub, March 3, 2010)

東チモール政府は2日、中国から取得した2隻のフリゲートの泊地として、ヘラ(Hera)港に臨時のドックを建設することを承認した。フリゲート取得の狙いは、不法操業が盛んで特に脆弱と見られる同国のEEZ内での哨戒能力を強化するためである。

記事要旨：東チモール政府は2日、中国から取得したフリゲートの泊地として、ヘラ(Hera)港に臨時のドックを建設することを承認した。閣僚会議事務局の声明によれば、中国から取得した2隻のフリゲートが近く到着することから、そのための泊地として臨時のドックが建設されることになった。2隻の*Shanghai III*級フリゲートの取得は東チモール軍海軍部隊再建計画の一環で、政府は最終的に新たな海軍基地の建設を計画している。同級フリゲートの航続距離は700カイリで、洋上で長期間の哨戒活動が可能である。フリゲート取得の狙いは、不法操業が盛んで特に脆弱と見られる同国のEEZ内での哨戒能力を強化するためである。

記事参照：<http://www.macauhub.com.mo/en/news.php?ID=9019>

### 3月3日「中国海軍には海外補給点が必要—海軍ハイテク化諮問委员会主任」(新華網、2010年3月3日)

伊卓・海軍ハイテク化諮問委员会主任によれば、中国海軍には海外軍事基地の建設より、米空母にとっての香港のような、海外補給点が必要であるという。

記事要旨：中国の3日付の「新華網」は、中国海軍には海外軍事基地の建設より海外補給点が必要であるとする、伊卓・海軍ハイテク化諮問委员会主任(兼全国政治協商委員会委員)の見解を報じた。伊はその理由を、①中国は軍人の待遇向上のために多額の経費を必要とすること、②中国海軍の護衛部隊に必要なのは補給点であり軍事基地ではない、と指摘している。伊によれば、補給点とは、「米国の空母が香港に入港して補給を行うのと同様であり、シンガポールの米軍基地のようなものではない」という。伊卓は2009年末に海外補給基地の建設に前向きな姿勢を見せていた。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2009年12月号 1.2 軍事参照。)

記事参照：<http://mil.nen.com.cn/military/130/3451130.shtml>

### 3月4日「2010年度中国国防費、前年比実質7.5%増」(The New York Times, March 5, 2010)

中国は4日、2010年度国防予算が総額5321億元、対前年度比実質7.5%増であることを明らかにした。1桁台の伸びは1989年以来である。

記事要旨：中国の全国人民代表大会(全人代)の李肇星報道官は4日、全人代に提案する2010年度国防予算が総額5,321億元(779億米ドル)、対前年度比実質7.5%増であることを明らかにした。この伸び率は、ここ数年の伸び率のほぼ半分で、1桁台の伸びは1989年以来である。李肇星報道官は、中国政府は常に国防費の抑制に努めてきたとし、国防と経済発展のバランスを維持できる妥当なレベルに国防費を設定した、と語った。

記事参照：<http://www.nytimes.com/2010/03/05/world/asia/05china.html?ref=world>

## 【関連記事 1】

## 「国防費は低レベルを維持、全人代解放軍代表」(解放軍報電子版、March 7, 2010)

丁継亜・総後勤部副部長は、中国の国防費は伸びているものの依然として不足しており、この状態が長期的に続くことが見込まれるとの見方を示した。

記事要旨：第 11 期全国人民代表大会第 3 次大会（5 日～18 日開催）の解放軍代表、丁継亜・総後勤部副部長は、解放軍報の取材に対し、2010 年の中国の国防予算は対前年比 7.5%の伸びで、ここ数年に比べかなりの減少となったこと、また GDP に占める国防費の割合は 1.4%前後で世界の平均レベルよりも依然として低いことを強調した。また丁副部長は、中国の国防費は伸びているものの依然として不足しており、この状態が長期的に続くことが見込まれるとの見方を示した。その上で、丁副部長は、解放軍は、①軍人の待遇や設備の充実、②情報化の推進、③多様な安全保障の脅威に対処する多様な任務遂行能力向上との間でバランスをとり、低コスト・高効率を追求しなければならない、と強調した。

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/07/content\\_22249.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/07/content_22249.htm)

Reference : A comparison of the budgets, nuclear forces, and conventional capabilities of the U.S. and Chinese Military

<b>SUMMARY OF ACTIVE FORCES</b>		
	<b>China</b>	<b>USA</b>
FY 2010 Defense Budget*	\$77.95 billion	\$663.8 billion
Active Personnel	2,285,000	1,580,255
DEPLOYED Nuclear Warheads (Estimates) **	100 - 200	2,200**
Total Warheads **	100 - 200	9,326
Total Submarines	65	71
Ballistic Missile Submarines (SSBN)	3	14
Submarines (Tactical)	62	57
Aircraft Carriers	0	11
Fixed Wing Aircraft	2,866	7,367
Reserve Aircraft	0	132
Aerial Refueling Tanker	18	512
Helicopters	657	5,322
Reserve Helicopters	0	92
Drone / Unmanned Aerial Vehicles	Unknown	4,076
Waterborne Vessels	918	2,659
Battle Tanks	6550+	5850+
Artillery (Combined)	17,700	6,720

Note: All data compiled from The Military Balance 2010, except:

\*Chinese budget announced by Government (Note: There is debate as to whether this reflects true spending), and \*US budget announced by Department of Defense.

Source: Chad O'Carroll, The U.S. and China: A Military Comparison, The Center For Arms Control And Non-Proliferation, March 17, 2010  
[http://www.armscontrolcenter.org/policy/nuclearweapons/articles/the\\_us\\_and\\_china\\_a\\_military\\_comparison/](http://www.armscontrolcenter.org/policy/nuclearweapons/articles/the_us_and_china_a_military_comparison/)

**【関連記事 2】****「全人代における解放軍関係者の発言」**

以下は解放軍報（電子版）が報じる、第 11 期全国人民代表大会第 3 次大会（5 日～18 日開催）における解放軍関係者の発言要旨である。

## 1. 郭伯雄・中央軍事委員会副主席兼中央政治局委員

郭伯雄は、解放軍代表団分科会において、①情報条件下の局地戦争に打ち勝つことによって、任務遂行能力の多様化を完成することを核心とし、②国家主権、安全保障、領土の一体性をしっかりと維持し、③国家の発展利益と社会の安定を維持し、④小康社会の全面的建設に有力な安全保障を提供しなければならない、と指摘した。アデン湾・ソマリア海域での護衛活動と国連平和維持活動について、郭は、「継続し、中国の責任ある大国イメージを維持しなければならない」と強調した。（解放軍報電子版、March 7, 2010）

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/07/content\\_22216.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/07/content_22216.htm)

## 2. 梁光烈・国防部長

梁光烈・国防部長（中央軍事委員会委員兼國務委員）は、解放軍代表団分科会において、解放軍の任務について以下の諸点を指摘した。

- ①情報システム体系の作戦遂行能力の建設を強化し、核心的な軍事能力を高める努力をする。
- ②国防動員法の学習を貫徹し、現代化された国防動員システムの構築を加速し、国家の安全保障と発展に戦略的支えを提供する。
- ③沿岸防衛の建設を強化し、沿岸の安全と安定を維持し、沿岸地域の経済社会の発展と国家の長期的に安定のために安全を保障する。（解放軍報電子版、March 8, 2010）

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content\\_22274.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content_22274.htm)

## 3. 呉勝利・海軍司令官（兼中央軍事委員会委員）

呉勝利・海軍司令官は、海軍の任務について以下の諸点を指摘した。

- ①国家の安全保障情勢の発展に適応して、軍事闘争準備を展開・深化させ、多様な安全保障脅威への対応能力、多様な軍事任務遂行能力を不断に高め、国家の海洋安全保障と発展利益を維持する。
- ②遠海における護衛活動を高い水準で遂行し、国家の経済建設と社会の発展に貢献する。
- ③国家の建設・発展の大局に服し、大局からの問題思考を自覚し、大局の下で行動し、党と憂いを共にし、国家に利益をもたらし、人々に幸福をもたらす。（解放軍報電子版、March 8, 2010）

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content\\_22274.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content_22274.htm)

## 4. 張徳順・解放軍代表

- ①中国は海洋大国であり、国家戦略レベルにおいて「興海強国」の指導方針としている。
- ②同時に、中国は海洋権益の維持と沿岸防衛を重視し、隣国との海上境界の協議を加速し、中国の領海、接続水域、排他的経済水域、そして大陸棚などに関する法律を相次いで施行し、沿岸防衛の安全と海洋権益の維持に対し、法律の支えを提供している。（解放軍報電子版、March 9, 2010）

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/09/content\\_22446.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/09/content_22446.htm)

### 3月6日「米海軍最新イージス艦、就役」(U.S. Navy News Stand, March 6, 2010)

米海軍の *Arleigh Burke* 級イージス艦の 55 番艦、USS *Dewey* (DDG105) は 6 日、カリフォルニア州の Naval Weapons Station Seal Beach で就役した。

記事要旨：米海軍の最新イージス艦、USS *Dewey* (DDG105) は 6 日、カリフォルニア州の Naval Weapons Station Seal Beach で就役した。同艦は、*Arleigh Burke* 級イージス艦の 55 番艦で、Seal Beach で就役する初めての戦闘艦である。

記事参照：[http://www.navy.mil/search/display.asp?story\\_id=51763](http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=51763)



The Arleigh Burke-class guided-missile destroyer USS *Dewey* (DDG 105) departs Naval Weapons Station Seal Beach after her commissioning ceremony.

Source: [http://www.navy.mil/view\\_single.asp?id=82952](http://www.navy.mil/view_single.asp?id=82952)

### 3月8日「米海軍艦隊補給艦、再就役」(NOSINT Blogspot.com, March 8, 2010)

米海軍艦隊補給艦、USNS *Joshua Humphreys* は、2010 年夏に再就役し、U.S. Fleet Forces Command 隷下で、第 5 艦隊管轄海域で米海軍や多国籍軍の戦闘艦艇に対する燃料補給任務に従事する。

記事要旨：米海軍艦隊補給艦、USNS *Joshua Humphreys* は近く、70 日間の定期的なオーバーホールを経て、2010 年夏に再就役する。同艦は、1996 年に現役を離れ、the Navy's Inactive Ships 計画に編入されていた。同艦の主任務は、洋上における戦闘艦艇への給油と空母艦載機の燃料補給である。同艦は再就役後、U.S. Fleet Forces Command 隷下で、海賊対処作戦やグローバルな対テロ作戦を支援するために、第 5 艦隊管轄海域で米海軍や多国籍軍の戦闘艦艇に対する燃料補給任務に従事する。

記事参照：<http://nosint.blogspot.com/2010/03/usns-joshua-humphreys-to-be-reactivated.html>



USNS *Joshua Humphreys*

Source: [http://upload.wikimedia.org/wikipedia/en/f/ff/USNS\\_Joshua\\_Humphreys\\_NISMF.jpg](http://upload.wikimedia.org/wikipedia/en/f/ff/USNS_Joshua_Humphreys_NISMF.jpg)

### 3月22日「グアム住民、海兵隊基地建設に懸念高める」(The Washington Post, March 22, 2010)

22日付けの米紙、*The Washington Post*が報じたところによれば、グアムの18万住民は、海兵隊基地の建設に伴う、港湾、送電網、病院、ハイウェイ、公共サービス、更に現在既に不十分な上下水道システムなど、島全体のインフラに対する影響に懸念を高めている。

記事要旨：①グアム住民は、新たな海兵隊の基地建設が、港湾、送電網、病院、ハイウェイ、公共サービスに加えて、現在既に不十分な上下水道システムに多大の負担をかけることを懸念している。環境保護庁 (the Environmental Protection Agency: EPA) は2月に、国防省が計画している軍事施設の増強は島全体の水不足を引き起こし、下水処理システムにも過重な負担となる、と指摘した。

②施設増強計画には、海兵隊基地と飛行場の新設に加えて、原子力空母を受け入れるための港湾の浚渫が含まれている。EPAは、この計画に対して、71 エーカーに及ぶ貴重な珊瑚礁に甚大な影響を及ぼす、と指摘している。軍は、現在島全体の27%を占有しているが、更に最後に残された海岸沿いの未開の森林を含む地域に、海兵隊の射撃場の建設を望んでいる。EPAは、増強計画は環境保護の観点から満足のものではなく、計画通り進めるべきではない、と主張している。

③グアム政府当局は、基地建設に伴う直接、間接の経費を、道路整備費17億ドル、既に過重負担になっている公共病院の拡充費用1億ドルを含む、約30億ドルと見積もっている。しかし、グアムは、18万住民の3分の1が食糧切符を受け、約25%の住民が米国の貧困水準よりも低い生活レベルにあり、この費用は負担できない。

④建設作業のピーク時には、グアムの人口は7万9,000人、全人口の約45%も増えると見られる。EPAによれば、軍は、沖縄から移転してくる海兵隊員とその関係者、約2万3,000人に対する公共サービスの提供を負担する計画である。連邦政府は、移転に伴う住民への負担に対処するために、2010年度予算で7億5,000万ドルを計上し、2011年度予算で10億ドルを要求している。

⑤グアム政府当局は、8,000人の海兵隊移転計画について、連邦政府から協議に与らなかつたが、政府当局も住民の多くも当初は、この計画を歓迎していた。グアムは、軍に対する尊敬心が厚く、全米50州、4つの自治領の中でも、兵員募集率は常に全米トップで、彼らの最近の戦争における戦死率も本土諸州の4倍となっている。グアムは、米領で唯一、大戦中2年半にわたって日本の占領を経験しており、1944年の米軍による解放で、住民は未だに米国に恩義を感じている。住民は、それに報いるために、自分達の島を、東アジアに対する米国の軍事力投入のための、the "tip of the spear" (槍の穂先) と誇らしく呼ぶ。グアムには既に、海、空軍基地があり、攻撃型原潜、F-22 戦闘機、B-2 ステルス爆撃機がローテーション展開しており、ミサイル防衛網も配備されることになっている。

⑥グアムのチャマロ知事は2月に、連邦政府の十分な資金が配分されるまで、海兵隊の移転計画を延ばすよう求めた。しかし、自治領として、グアムは、住民は米国民民だが、連邦議会で投票権を持っておらず、十分なロビー活動もできず、移転を阻止する法的手段も持っていない。

記事参照：<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/03/21/AR2010032101025.html>



### 3月26日「韓国海軍哨戒艦、北方限界線付近で沈没」(Defense News, March 26, 2010)

韓国海軍哨戒艦、「天安」(排水量1,200トン)は26日、北方限界線(NLL)付近のペンニョン島南方海上で沈没した。原因は明らかになっていない。

記事要旨：韓国海軍哨戒艦、「天安」(排水量1,200トン)は26日、北方限界線(NLL)付近のペンニョン島南方海上で沈没した。乗組員104人の内、40人以上が行方不明となっている。韓国海軍は、沈没原因の究明に当たっている。

記事参照：<http://www.defensenews.com/story.php?c=ASI&s=TOP&i=4556313>



「天安」と沈没現場

Source: The Korea Herald, March 27, 2010

### 3月30日「ロシア海軍2隻目のステルス艦、進水へ」(RIA Novosti, March 30, 2010)

ロシア海軍のProject 20380型コルベットの2番艦が31日にサンクトペテルブルグの造船所で進水する。同艦は2,000トン、最大速度27ノット、乗員100人で、ステルス性能を備えており、1番艦は既にバルト艦隊に配備されている。ロシア海軍は最大30隻の建造を計画している。

記事要旨：ロシア海軍報道官が30日明らかにしたところによれば、ロシア海軍2隻目のステルス艦、the *Soobrazitelny* が31日にサンクトペテルブルグの造船所で進水する。同艦は、Project 20380型コルベットの2番艦で、ステルス性能を備えている。1番艦の the *Steregushchy* は2008年10月にバルト艦隊に配備されている。現在、更に2隻、the *Boyky* と the *Stoyky* が建造中である。Project 20380型コルベットの2,000トン、最大速度27ノット、乗員100人で、対艦、対潜、対空戦闘用に加えて、上陸部隊の援護砲撃にも使用される。ロシア海軍は、沿岸水域の防衛と、特に黒海、バルト海における石油・天然ガス輸送ルートの防衛のために、最大30隻の建造を計画している。

記事参照：[http://en.rian.ru/mlitary\\_news/20100330/158367699.html](http://en.rian.ru/mlitary_news/20100330/158367699.html)



Project 20380 型コルベット

Source: RIA Novosti, March 30, 2010

### 1.3 海洋境界

#### 3月24日「インド・バングラデシュ係争の島、海中に消滅」(BBC News, March 24, 2010)

インドとバングラデシュ係争の島、ハリアバンガ川河口沖の無人島（が、最近の衛星観測で海中に没していることが判明した。海洋研究所によれば、ベンガル湾の水位はこの10年間、それ以前の15年間より速いペースで上昇しており、ガンジス川河口のサンドラバンズ・デルタ地帯の他の島々も今後、同じように海面下に没する可能性があるという。

記事要約：インドのコルカタの海洋研究所によれば、インドとバングラデシュ係争の島、ハリアバンガ川河口沖の無人島（インド側の呼称で **New Moore Island**、バングラデシュ側の呼称で **South Talpatti Island**）が、最近の衛星観測で海中に没していることが判明した。同研究所によれば、その他の周辺の島も海面下に没する可能性がある。これらの島は、これまででも水面上2メートル以上になったことはなかった。海洋研究所のハズラ (**Sugata Hazra**) 教授は、長年にわたる両国間の海洋境界を巡る係争が、地球温暖化によって解決された、と指摘している。同教授によれば、ベンガル湾の水位はこの10年間、それ以前の15年間より速いペースで上昇しており、ガンジス川河口のサンドラバンズ (**Sundarbans**) デルタ地帯の他の島々も今後、同じように海面下に没する可能性があるという。

記事参照：[http://news.bbc.co.uk/2/hi/south\\_asia/8584665.stm](http://news.bbc.co.uk/2/hi/south_asia/8584665.stm)



Source: BBC News, March 24, 2010

## 1.4 外交・国際関係

### 3月7日「東シナ海を『平和、友好、協力の海』に、中国外相」(新華社、March 7, 2010)

楊潔篪・中国外交部長は7日、国内外の記者との会見で、中日双方は東シナ海に関する双方の共同認識の精神を順守し、良好な条件を作り出し、東シナ海を「平和・友好・協力の海」としななければならない、と述べた。

記事要旨：楊潔篪・中国外交部長は7日、国内外の記者との会見で、日中関係について要旨以下のよう述べた。

- ①中日双方は、共同努力を通じて戦略的互惠関係を推進しなければならない。2国間、地域、グローバルという3つのレベルで双方の意思疎通と協力を強化しなければならない。伝統的な領域以外に、エネルギー、環境、循環経済、ハイテクなどの方面で重要な協力のチャンスがある。
- ②アジア太平洋地域における協力には、多くのメカニズムがさまざまなレベル、速度で発展しているが、開放的で包容力のある態度をとるべきである。中国はASEANの主導的地位を支持する。中国は、各方面が地域の一体化に関して積極的な提案や努力を行うことを歓迎するし、これは中国自身の態度でもある。
- ③東シナ海問題における中日の違いについて、中国側は一貫して協議を通じた妥当な解決を主張している。中国側の態度は積極的で、消極的ではない。中日双方は、東シナ海問題について原則の共同認識を達成しているが、これは双方の長期にわたる努力の結果であり、軽視することはできず、高く評価する価値がある。双方は、東シナ海に関する双方の共同認識の精神を順守し、良好な条件を作り出し、東シナ海を「平和・友好・協力の海」としななければならない。

記事参照：[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content\\_22294.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-03/08/content_22294.htm)

### 3月10日「中国、空港建設資金をスリランカに貸与」(BBC News, March 10, 2010)

中国は、スリランカの国際空港建設や鉄道網整備のために、巨額に資金を貸与している。インドは、こうした状況に警戒感を示している。

記事要旨：スリランカ外務省によれば、中国は、同国に2番目の国際空港を建設するために、2億米ドルを貸与する。また、中国は、同国の鉄道網を整備するために、別に1億米ドルを貸与する。新空港は、現在中国の資金援助で建設中の港湾、ハンバントータの近くに建設され、既に作業が始まっている。スリランカ政府によれば、現在同国が外国から受け入れている建設・開発ローンの半分以上が中国からのものである。こうした状況について、インドのある政府筋は、中国が巨額の経済援助で域内におけるインドの影響力を減殺しようとしている、と警戒感を示している。

記事参照：[http://news.bbc.co.uk/2/hi/south\\_asia/8560544.stm](http://news.bbc.co.uk/2/hi/south_asia/8560544.stm)

### 3月17日「インド海軍、モーリシャスの水路調査支援」(Defense News, March 18, 2010)

インド海軍は17日から4週間にわたって、モーリシャスの水路調査を支援する。過去4年間、インド海軍は、モーリシャス周辺海域で10回にわたる水路調査を実施してきた。

記事要旨：インド国防省の17日付けの発表によれば、インド海軍は17日から4週間にわたって、モーリシャスの水路調査を支援する。過去4年間、インド海軍は、モーリシャス周辺海域で10回にわたる水路調査を実施してきた。これらの海域には、首都、ポートルイス (Port Louis) 港、ロドリゲス島のポートルマスリン (Port Mathurin in Rodrigues Island)、カルガドス・カラホス礁 (Carajos Cargados Shoals)、アガレガ諸島 (Agalega Island) が含まれている。インド海軍は、これら海域における経済的、戦略的利益を護るとの姿勢を明確にしている。アントニー国防相は、「インドは重要な海洋大国としての能力を保有しており、インド洋は、インドにとっての新たな『絹の道』 ('Silk Route') とも言うべきものであり、インド洋周辺海域は南アフリカからオーストラリアにまで広がっている」と述べた。一方、中国もまた、インド洋周辺諸国との関係強化に努めている。中国は、モルディブに近いマラオ礁 (Marao) に海軍基地を建設中である。

記事参照：<http://defensenews.com/story.php?i=4544966&c=ASI&s=TOP>

## 1.5 海運・造船・港湾

### 3月1日「ノルウェー人船員、数百名が健康証明取消」(Trade Winds, March 1, 2010)

ノルウェー船員の多くが2009年に肥満を理由に、健康証明を取り消された。

記事要旨：ノルウェーの the Norwegian Centre for Maritime Medicine によれば、2009年に肥満を理由に、健康証明を取り消されたノルウェー人船員は511人に達した。これは、2008年に比べて20%も増えている。同センターの所長は、「船員の健康問題が増大しており、これは、国際的傾向である」と指摘している。BMI指標35以上の者は、特別許可がない限り船上での仕事が許可されない。

記事参照：購読者のみアクセス可能

### 3月3日「2009年の仕送り総額、過去最高—フィリピン人船員」(Trade Winds, March 3, 2010)

2009年のフィリピン人船員による故国への仕送り総額は34億米ドルに達し、過去最高となった。

記事要旨：フィリピン人船員による故国の家族への2009年の仕送り総額は34億米ドルに達し、過去最高となった。これは、2008年の30億3,000万米ドルから12%の増加である。フィリピンの労働組合会議によれば、2009年における欧州在住のフィリピン人船員の仕送り額は11億5,000万米ドルで、2008年比79%の増額であった。アジア在住船員の仕送り額は5億780万米ドルで、2008年比55%の増額であった。一方、米国在住のフィリピン人船員の仕送り額は17億米ドルで、2008年比16%の減額であった。

記事参照：購読者のみアクセス可能

### 3月3日「IMO、救命ボートのリリース・メカニズムに関する新たな指針作成へ」(Lloyd's List, March 3, 2010)

IMOは、救命ボートが誤ってリリースされてしまう事故を減らすために、リリース・メカニズムに関する新たな指針の草案に合意した。

記事要旨：IMO の船舶設計と船用設備に関する小委員会は、救命ボートが、特に訓練時や検査時に、誤ってリリースされてしまう事故を減らすために、リリース・メカニズムに関する新たな指針の草案に合意した。これまで、救命ボートの落下など、誤ってリリースされる事故による船員の死傷事故が多く起きている。2010年5月開催のIMO 海上安全委員会(the IMO Maritime Safety Committee)において、「船載救命ボートのリリース・メカニズムの検査と代替に関する指針」(the 'Guidelines for evaluation and replacement of lifeboat on-load release mechanisms') が承認される予定である。

記事参照：購読者のみアクセス可能

### 3月9日「北朝鮮、ロシアと中国に羅津港を開放」(The Korea Herald, March 9, 2010)

北朝鮮は最近、ロシアに羅津港を50年間使用する権利を付与すると共に、中国に対して2008年に調印された10年間の同港使用権を更に10年間延長した。

記事要旨：韓国紙、*The Korea Herald* が9日に報じたところによれば、北朝鮮は最近、ロシアに羅津港を50年間使用する権利を付与すると共に、中国に対して2008年に調印された10年間の同港使用権を更に10年間延長した。中国は、使用権を取得して以来、同港埠頭の近代化のために数千万円を投資している。中国は、同港を使用することで、発展が遅れ、輸送インフラが欠如している東北諸省から石炭やその他の輸出品を輸送できる。羅津港の開放は、隣接するロシアや中国との間での貿易を活性化すると共に、両国からの投資機会の増大を求める、北朝鮮の最近の方針の1例である。

記事参照：[http://www.koreaherald.co.kr/NEWKHSITE/data/html\\_dir/2010/03/09/201003090047.asp](http://www.koreaherald.co.kr/NEWKHSITE/data/html_dir/2010/03/09/201003090047.asp)

### 3月9日「日本、ベトナムの港湾建設支援」(vietnamplus, March 10, 2010 and 国土交通省 HP、3月11日)

国土交通省はベトナム交通運輸省との間で、ハノイで9日と10日の両日、「第1回日越分野別協議(港湾、鉄道)」と「日越港湾セミナー」を開催した。この協議で、日本側はカイメップ・チーバイ港とラックフェン港の建設や関連インフラの整備に資金を供与することで合意した。

記事要旨：国土交通省はベトナム交通運輸省との間で、ハノイで9日と10日の両日、「第1回日越分野別協議(港湾、鉄道)」と「日越港湾セミナー」を開催した。この協議で、日本のODAベースで建設されている、Ba Ria-Vung Tau 省のカイメップ・チーバイ港について、同港のバースの接岸能力を、現在の6万5,000~8万トン級の船舶対応から10万トン級の大型船に対応できるよう拡充するため、JICA は、追加資金の供与に合意した。ホーチミン市北方のラックフェン港プロジェクトは、日越官民連携(PPP)の枠組みで建設され、第1段階では、同時に2隻の10万トン級船舶の接岸能力を持つ700メートル埠頭と関連施設が建設される。同港については、日本企業3社が、関連インフラの建設への投資について調査を実施している。JICA は、同港とハノイーハイホン・ハイウェーを連結する道路と橋の建設に資金を供与することで合意している。

記事参照：[http://www.vpa.org.vn/detail\\_temp.jsp?id=1546](http://www.vpa.org.vn/detail_temp.jsp?id=1546)

国土交通省 HP：[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo06\\_hh\\_000029.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo06_hh_000029.html)

### 3月17日「インドの港湾能力、大幅強化」(Hellenic Shipping News, March 18, 2010)

インドの海運相が17日に明らかにしたところによれば、インドの港湾の貨物処理能力は、2012年までに15億トンに達すると見込まれている。その内、主要12港だけで現在の5億7,477万トンから10億トンの処理能力になる。

記事要旨：インドのヴァサン (G K Vasan) 海運相が17日に明らかにしたところによれば、インドの港湾の貨物処理能力は、2012年までに15億トンに達すると見込まれている。ヴァサン海運相は、「第11期5カ年計画(2007~2012年)完了時までには、インドの全港湾の貨物処理能力は15億トンに達し、その内、主要12港だけで現在の5億7,477万トンから10億トンの処理能力になると見込んでいる」と述べた。更に、同相によれば、その他の200の港湾の処理能力は2012年末までに5億8,000トンになると見込んでいる。現在遂行中の総額1,000億ルピーの「国家海洋発展計画」(National Maritime Development Programme: NMDP)では、港湾能力の拡充に558億400万ルピーが充当され、残りが海運部門と内陸水路の整備に当てられる。

記事参照：[http://www.hellenicshippingnews.com/index.php?option=com\\_content&task=view&id=92207&Itemid=36](http://www.hellenicshippingnews.com/index.php?option=com_content&task=view&id=92207&Itemid=36)

## 1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

### 3月1日「中国、北極海進出を準備—SIPRI 報告書」(SIPRI, March 1, 2010)

スウェーデンのストックホルム国際平和研究所は1日、夏期の数カ月間、海氷が溶けて航行可能になる北極海への進出に向けて、中国が準備を進めているとの報告書を公表した。

記事要旨：スウェーデンのストックホルム国際平和研究所(Stockholm International Peace Research Institute: SIPRI)は1日、「China prepares for an ice-free Arctic」と題する報告書を公表した。この報告書は、夏期の数カ月間、海氷が溶けて航行可能になる北極海への進出に向けた中国の動向を分析したものである。報告書は、海氷のない北極海は中国にとって、欧州への最短航路となり、天然資源へのアクセスが可能となり、更に北極海諸国、特にノルディック諸国(デンマーク、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド)との関係緊密化へのインセンティブを高める、と指摘している。同時に、そうしたことが新たな国際的緊張を高める可能性も、報告書は指摘している。報告書によれば、中国政府は、北極海の調査に特別の資金を割り当てると共に、航路の開拓や将来的な資源開発に向けハイテク砕氷船の建造を決定するなど、北極海進出の準備を進めている。

報告書の執筆者、SIPRIのジャコブソン(Linda Jakobson)北京在住上級研究員によれば、①欧州と北米市場への最短航路、②未開発の天然資源へのアクセスの可能性という2つの視点から、中国経済発展のために中国が北極海にどのような関心を持っているかについて、中国政府高官、学者及びその他のソースから得た情報を基に報告書を作成した。ジャコブソン上級研究員は、「中国は、海氷のない北極海がもたらす商業的、戦略的機会について、徐々に、だが着実に認識を高めつつある」と指摘している。

記事参照：<http://www.sipri.org/media/pressreleases/100301chinaarcticreport>

報告書全文：<http://books.sipri.org/files/insight/SIPRIInsight1002.pdf>

### 3月5日「英領インド洋地域に海洋保護区を、科学者・環境団体提唱」(Shiptalk, March 6, 2010)

英国政府は、科学者や環境団体などの提唱に応じて、英領インド洋地域に、海洋保護区を設定することを検討しており、近く最終決定がなされる。

記事要旨：英領インド洋地域 (the British Indian Ocean Territory: BIOT) の 27 万 5,000 人を超える住民と英国及び世界の指導的科学家や環境団体は、英国政府に対して、チャゴス諸島とその周辺海域で構成される BIOT に、海洋保護区を設定するよう提唱してきた。もし設定されれば、チャゴス諸島海洋保護区は、世界最大の海洋保護区となる。英国政府は、3 カ月にわたる住民との協議を 3 月 5 日に終え、現在、チャゴス諸島海洋保護区の設定を検討中である。最終決定は近く行われると見られる。保護区の設定によって、漁業などの資源乱獲を規制することで、チャゴス諸島とその周辺海域の豊富な海洋生物多様性が保護されることになる。チャゴス諸島は 55 の島嶼で構成される、21 万平方マイル以上の海域で、世界で最も綺麗な海域の 1 つとされ、インド洋に残された健全な珊瑚礁の半分近くが含まれる。

備考：BIOT は、チャゴス諸島とその周辺の諸島を含め、1965 年に英国領として成立した。BIOT の南端にある最大の島嶼が、米軍基地のあるデェゴガルシア島である。

記事参照：<http://www.shiptalk.com/?p=3694>

### 3月8日「シェル社、洋上 LNG 施設建造契約調印」(Marine Log, March 9, 2010)

シェル社は 8 日、the Technip and Samsung Heavy Industries consortium との間で、西オーストラリア沖合での洋上 LNG 施設建造のための契約に調印した。沖合のガス田に洋上 LNG 施設を設置することで、経費の掛かる沿岸までのパイプラインや沿岸の液化施設が不要となる。

記事要旨：シェル社は 8 日、the Technip and Samsung Heavy Industries consortium との間で、西オーストラリア沖合での洋上 LNG 施設、the Prelude プロジェクト建造のための契約に調印した。洋上 LNG 施設の建造は the Prelude プロジェクトに対する最終投資が決定されてからとなるが、Technip and Samsung は、長さ 486 メートル、幅 74 メートルの洋上施設を合同で設計し、韓国の Samsung Heavy Industries の造船所で建造する。2016 年の引き渡しを目指しており、建造価格は 40～50 億米ドルと見積もられている。シェル社は、沖合のガス田に洋上 LNG 施設を設置することで、経費の掛かる沿岸までのパイプラインや沿岸の液化施設が不要となる。

記事参照：<http://www.marinelog.com/DOCS/NEWSMIX/2010mar00091.html>



洋上 LNG 施設

Source: Marine Log, March 9, 2010

### 3月15日「米地質研究所、東南アジア22区域の未発見石油・天然ガス資源調査結果公表」(U.S. Geological Survey, News, March 15, 2010)

米地質研究所は15日、東南アジアの22区域の未発見石油・天然ガス資源調査結果を公表した。

記事要旨：米内務省傘下の米地質研究所 (the U.S. Geological Survey: USGS) は15日、the USGS World Petroleum Resources Project の一環として実施した、東南アジアの22区域の未発見石油・天然ガス資源調査結果を公表した。それによれば、22区域の未発見石油資源は、89億2,200万～415億5,800万バレルと見込まれ、中間値で216億3,200万バレルである。一方、天然ガス資源は、128兆9,080億～557兆510億立方フィートと見込まれ、中間値で298兆7,610億立方フィートである。

記事参照：調査結果；<http://pubs.usgs.gov/fs/2010/3015/pdf/FS10-3015.pdf>

### 3月31日「米オバマ大統領、海底油田掘削を承認」(CBC News, March 31, 2010)

オバマ大統領は31日、一連のエネルギー政策を発表し、大西洋岸などでの海底油田の掘削区域の拡大を承認した。

記事要旨：オバマ大統領は31日、メリーランド州のアンドリュース空軍基地で演説し、一連のエネルギー政策を発表した。大統領はこの演説で、米国の海外における石油資源への依存を軽減する狙いから、メキシコ湾を除いて29年間禁止されてきた、大西洋岸などでの海底油田の掘削区域の拡大を承認した。アラスカ州のブリストル湾については、環境保護を理由に、掘削を認めなかった。また、一連のエネルギー政策には、ジェット戦闘機にバイオ燃料を使用する、空軍による実験開始も含まれている。

記事参照：<http://www.cbc.ca/world/story/2010/03/31/us-obama-offshore-drilling.html>

大統領演説：<http://www.whitehouse.gov/the-press-office/remarks-president-energy-security-andrews-air-force-base-3312010>

内務省の公表資料 (U.S. Department of the Interior, News, March 31, 2010) による、米本土とアラスカ州の海底油田の掘削区域：

米本土：[http://www.doi.gov/news/doinews/2010\\_03\\_31\\_news.cfm](http://www.doi.gov/news/doinews/2010_03_31_news.cfm)

アラスカ州：<http://www.doi.gov/whatwedo/energy/ocs/AlaskaRegion.cfm>



## 2. 情報分析

### 「グローバルコモンズ」を巡る新たな戦略構造

近年、グローバルな安全保障環境において、「グローバルコモンズの自由」対「アクセス拒否」(“Freedom of the Global Commons” vs. “Anti-access”)という対立が生じつつある。「グローバルコモンズ」とは、海洋、上空、宇宙そしてサイバー空間の4つを人類の共有物と看做し、それらに対する自由なアクセスを原則とする概念である。一方、「アクセス拒否」とは、国家が国益の観点から特定の明確なあるいは曖昧な形で排他的空間領域を設定し、その領域への他国のアクセスを制限し、あるいは拒否する戦略構想をいう。広義には、テロリスト等による船舶や航空機への攻撃、衛星破壊あるいはサイバー干渉などもアクセス拒否と捉えられる。

本稿では、近年強調され始めた、「グローバルコモンズの自由」と、それに対する「アクセス拒否」という戦略について、地政学と国際政治における現実主義の視点から分析を試みる。

#### 1. 新たな地政学

マッキンダーは、1904年のイギリス王立地理学協会における講演、「歴史の地理的回転軸」の中で、初めて地政学の概念を世に示した。その後、マッキンダーの地政学は、その著書、『デモクラシーの理想と現実』において、所謂「ハートランド」理論として詳述された。マッキンダー地政学の世界地理観は、大陸と海洋、即ち「ランドパワー」と「シーパワー」の対立として捉える。その後、スパイクマンは、『平和の地政学』において、「リムランド」概念を示し、世界政治の中におけるアメリカの戦略の在り方を地政学の視点から論じた。スパイクマンは、航空機の発達を見越して「エアーパワー」の重要性も説いている。いずれにせよ、これらの古典的な地政学の関心領域は、「ランドパワー」、「シーパワー」、そして「エアーパワー」に止まっていた。

しかしながら今日では、政治、経済、社会、文化、軍事、その他のあらゆる分野において、「宇宙」と「サイバー空間」が利用されるようになってきている。従って、現代の地政学は、大陸と海洋、上空、宇宙、そしてサイバー空間を交えて、多次的に論じられるべきものとなってきている。例えば、ドールマンは、その著書、『宇宙時代の古典地政学』の中で、宇宙地政学を提唱している。

宇宙地政学は、現在では、人類の活動の及ぶ衛星軌道が舞台となる。衛星軌道は大きく分けて、地表面から150~800キロの低高度軌道、800~1,500キロの中高度軌道、そして3万5,000キロ以上の高高度軌道がある。軌道が低くなれば、地上の物体の詳細な解析が可能であり、周回回数も多くなることから観測間隔を短くできる。一方、軌道が高くなると、周回回数は少なくなり解析度も低下するが、静止した状態での観測も可能となる。赤道上では、低高度軌道の外側に地球上の一点と常に同じ位置関係を保持できる対地静止軌道帯があり、利用価値が高い。衛星の軌道は目的に応じて選定されるが、変更も可能である。軌道の変更は「ホーマン遷移」が用いられる。簡単に言えば、軌道周回の放物線の角度を変えて他の軌道に乗換させる方法である。

宇宙を海洋に喩えれば、衛星軌道はシーレーンのようなものである。衛星を利用することにより、通信、情報、科学調査・探査、軍事等の面で大きな利益を得ることができる。

宇宙地政学をマハンのシーパワー論を援用して説明すれば、「衛星軌道を有効に活用した国家が繁栄を得る」と言うことになる。つまり、「スペースパワーが国家に富みをもたらす」ことになる。ま

た、衛星軌道を自己の管制下に置くことができれば、状況に応じて宇宙を排他的なものとする 것도可能であろう。そうであるとすれば、「コントロール・オブ・ザ・スペースがスペースパワーの中核となる」ということもできよう。1976年に赤道直下にある9カ国が「国家主権は対地静止軌道まで及ぶ」とする「ボゴダ宣言」を採択した。これは、対地静止軌道帯に対する排他的管轄権を主張するもので、まさに「コントロール・オブ・ザ・スペース」の価値を認識した宣言であったといえる。

サイバー空間は既に、軍事行動における指揮・管制・通信および情報媒体として、地政学に大きな影響を及ぼしている。海上輸送や航空輸送は、今やコンピューター通信による統制が不可欠であり、航空機や艦艇などの軍用プラットフォームや兵器はサイバーネットによってシステム化されている。ここでも、マハン流に言えば、シーパワーと同じく、サイバー空間を有効に利用した国家が、つまり「サイバーパワー」を発揮した国家が繁栄を得ることになる。また、サイバーネットをコントロールすることができれば、必要に応じてサイバー空間を排他的に利用することが可能となる。「サイバーコントロール」能力である。コンピューターネットワークに妨害を加える、あるいはウイルスを送って混乱させる等の行為は、現在既に頻繁に生じている。有事には国家行為として実施されるだろう。いわゆる「サイバー戦争」である。

## 2. 「グローバルコモンズ」とは何か

世界貿易の90%は、海上輸送に依存している。国際民間航空は、年間22億人と価格にして国際交易の35%に当たる物資を運んでいる。加えて、宇宙は、通信や調査・探査のためのプラットフォームの場を提供し、サイバーネットは、情報の伝達と共有に画期的な役割を果たすようになってきている。海洋、上空、宇宙そしてサイバー空間は、グローバル経済を支える人類の共有物である。アメリカは、これを「グローバルコモンズ」と呼んでいる。「グローバルコモンズ」構想は、ある意味でマハンのシーパワー論と似通っている。マハンは、シーレーンを「偉大なハイウェイ」と称し、その自由航行を前提とした国家の繁栄の道を説いた。今日、「偉大なハイウェイ」は、上空を越えて宇宙に及び、それをサイバーネットが支えている。「グローバルコモンズ」の自由な利用が世界の繁栄の基礎として位置づけられているのである。

以下に、アメリカのシンクタンク、Center for New American Security (CNAS) が2010年1月に公表したリポート、『コモンズを巡る角逐：多極化世界におけるアメリカン・パワーの行方』（以下、CNASリポートと表記）を引用しながら、「グローバルコモンズ」の認識と課題について整理してみる。

CNASリポートは、海洋、上空、宇宙とサイバーから成るグローバルコモンズについて、現下においてはアメリカが大きな力を発揮しているが、多極化が進む将来においてはアメリカの力が相対的に低下していく、と見ている。また、1国のみでグローバルコモンズの自由利用を守ることは不可能であることを認識すべきである、と指摘している。その上で、グローバルコモンズは、国家および非国家主体による挑戦を受けているとし、アメリカは以下の3つの政策を追求すべきであるとしている。

第1は、「グローバルレジーム」の構築 (Build Global Regime) である。アメリカは、同盟国や友好国のみならず、潜在的な対立国とも協調して、グローバルコモンズの自由利用の原則を確保するためのレジームを構築すべきことを提唱している。

第2は、中心的役割を担うこと (Engage pivotal power) であり、アメリカはグローバルコモンズの自由アクセスを維持するための国際的な意志と能力の構築に当たって、中心的役割を果たすべきことを強調している。

第3は、アメリカのハードパワーの再形成（Re-shape American hard power）である。ここでは、アメリカ国防省は、グローバルコモンズの安定が崩れた場合に有効に対応できるハードパワーを準備すべきであると述べている。

この第3点について、CNAS リポートは、「コマンド・オブ・ザ・コモンズ」という用語を用い、アメリカによる地球規模での軍事基地の展開と外交の重要性を説いている。ここでいう、「コマンド・オブ・ザ・コモンズ」とは、コマンド・オブ・シー、エアー、スペースそしてサイバーの総称である。また、CNAS リポートは、アメリカの同盟国の多くがグローバルコモンズを護る意思と軍の配備に消極的であり、アメリカにただ乗りしているが、アメリカが単一で守るグローバルコモンズの自由は不安定であることを認識すべきである、とも述べている。その上で、CNAS リポートは、2007年に示されたアメリカの新海洋戦略、『21世紀のシーパワーのための協調戦略』（a Corporate Strategy for 21st Century Sea power）は、まさにグローバルコモンズの自由利用を護るための戦略である、と評価している。

では、グローバルコモンズへの挑戦とは如何なるものか。CNAS リポートは、その主体として、国家あるいは非国家海上武装集団による「アクセス拒否」を挙げている。

### 3. 「アクセス拒否」戦略とは何か

ロシアが2007年8月に北極点海底にチタニウム製国旗を設置した行動は、ロシアの大陸棚を既成事実化する意思表示と受けとめられた。ロシアは、北極海に排他的な権利を主張する傾向があり、外国籍船の北方航路航行に様々な制限を加えてもいる。ロシアによる北極海に対するアクセス拒否の顕れとも言えよう。

現在、アクセス拒否戦略が最も顕在化しているエリアとしては、南シナ海が挙げられる。南シナ海では、2001年にアメリカ海軍のEP-3と中国人民解放軍の戦闘機とが衝突し、2009年にはアメリカ海軍の海洋調査船、「インペッカブル」に対する中国漁船等による妨害行為が起きている。これらの事案の背景には、排他的経済水域での沿岸国の平和を阻害する行為を国連海洋法違反とする中国と、国際海域での海洋自由を原則とするアメリカとの主張の相違がある。しかし、これらの事案はまた、グローバルコモンズの自由とアクセス拒否との間における相克と見ることもできる。

中国は、南シナ海に様々な権限を主張している。所謂“U字ライン”といわれる、南シナ海の囲い込みは、古くは明の時代の地図に現れているといわれる。この時代は、明の海将、鄭和が15世紀前半にインド洋への大遠征を繰り返した時期である。当時、南シナ海はまさに「明の海」であった。鄭和の艦隊は、南シナ海を根拠地としてインド洋にシーパワーを延伸していった。明の時代において、南シナ海は、外洋遠征のための橋頭堡であり、排他的な拠点空間であった。北方騎馬民族の侵略と経済の悪化により、鄭和の遠征は鄭和の死と共に終焉し、その半世紀後に西洋のシーパワーがインド洋に及ぶことになる。明のシーパワーの消滅は、中国の衰退の歴史の始まりでもあった。

第2次大戦後の1947年に、中国の国民党政府が“U字ライン”の地図を復刻させた。今日、中国海軍の増勢に従うかのように、“U字ライン”地図が海洋に関わる国際会議や論文などで多く取り上げられるようになってきている。中国は、“U字ライン”がいかなる意味を持ち、どのような権限があるかを明確には示していない。海洋安全保障に関わる国際会議では、中国の参加者から、「中国は歴史的に南シナ海に特別な関わりを持ってきた」、「南シナ海の実態は中国と深い関わりを持っている」、「歴史的に観て“U字ライン”の内側の島嶼は中国の主権に属している」といった意見を聞くことがある。これらの発言を付度すれば、“U字ライン”の内側海域は中国の歴史的海域であって、様々な

権利が認められるべきであり、また、そこにある島嶼は中国が領有する、ということであろう。その南シナ海で、今日、人民解放軍海軍の活動が活発化している。

人民解放軍海軍は、建国以来その防衛圏を拡大してきている。アメリカ海軍情報本部作成の、『中国的特質を持つ近代海軍』を参照しつつ、人民解放軍海軍の戦略の系譜を辿ってみる。

毛沢東が1953年に「帝国主義との戦いのために建設する」とした人民解放軍海軍は、創設から1980年代半ばまでは、「沿岸防衛」が主任務であった。1982年に海軍司令官に就任した劉華清は防衛圏を拡大し、「近海防衛」を掲げて海軍力の増強に取り組んだ。「近海」とは、黄海、東シナ海、南シナ海、スプラトリー諸島と台湾周辺海域、沖縄列島線の内側と外側、北部太平洋を指している。1996年の台湾海峡危機は、人民解放軍海軍を近代化へ向かわせる契機となった。中国はこれ以降、アメリカ海軍の空母打撃群の展開に対抗し得る兵器システムの開発と海軍の近代化を進めると共に、より前方海域で敵の侵攻を防ぐための「遠海防衛」戦略を目指すことになった。

では、「遠海防衛」における「遠海」とは何か。「遠海」とは、中国の国益の防衛のために必要な作戦域であって地理的な定義はない。「遠海防衛」における「南シナ海」は、人民解放軍海軍による「遠海防衛」のための橋頭堡であり、「U字ライン海域」は中国の絶対制海圏であると言える。中国にとって、南シナ海は他国の軍事力、とりわけアメリカ海軍の展開を許してはならない空間なのである。南シナ海には、経済活動の大動脈となるシーレーンが通り、石油・天然ガス等の海底資源開発が期待されている。アメリカにとっては、軍事力の展開の意味からも自由アクセスが不可欠な海域である。ここにおいて、南シナ海は今日、「グローバルコモンズの自由」対「アクセス拒否」が顕在化する空間となっているのである。

人民解放軍海軍は、1990年代から近代化と増強を続け、2009年末において、駆逐艦26隻、フリゲート艦48隻、ミサイル艇80隻以上、水陸両用艦艇58隻、機雷戦艦艇40隻、在来型攻撃潜水艦53隻、原子力攻撃潜水艦6隻、原子力戦略潜水艦3隻、加えて300隻余りの補助艦艇・支援船艇を保有するまでになっている。海南島に大規模な潜水艦基地を建設中であり、一方で、旧ソ連製の空母を改造して洋上に出すべく準備中であり、また対艦弾道ミサイルと空母探知捕捉兵器の開発にも取り組んでいる。開発中の対艦弾道ミサイル(ASBM)は、DF-21中距離弾道ミサイルの改良型と言われ、その射程1,500キロは、海南島から発射した場合、南シナ海全域をカバーする。中国は2007年1月、対衛星ミサイルの発射にも成功している。南シナ海は、海洋安全保障情報月報2009年12月号で紹介した「アメリカ海軍は何故2015年の海戦に敗れたか」のシナリオのような、海上、上空、軌道、そしてサイバー空間を包含する空間での、アクセスとアクセス拒否の争いがエスカレートする危険性を孕んでいる。

#### 4. 国際政治における現実主義とアクセス拒否戦略

現在のアメリカと中国との関係を論じる場合、主権国家からなる国際政治体系における現実主義による蓋然性のある行動様式についての知識が重要である。現実主義の本質については、大きく分けて3つの学説がある。冷戦前期にハンス・モーゲンソーの唱えた現実主義は、「大国は本質として侵略的である」との立場をとっていた。つまり、軍事面から見た場合、大国は他のどの国に対しても武力を行使し得る能力を持っており、その能力がゆえに国益遂行において侵略的となる、との解釈である。冷戦後期には、ケネス・ウオルツが自著、『国際政治の理論』において、「国家の目的は自国の安全であり、国際システムの構造から必然的にパワー・バランスを求める」との防衛的現実主義の考え方を示し、それが支持されるようになった。これは、本来国家には防衛本能があるが、各国の安全を守る

国際システムがないため、国家は他国とのパワー・バランスを図るようになる、との考えである。冷戦後、ジョン・ミアシャイマーは自著、『大国政治の悲劇』の中で、「国家の究極の目的は覇権を得ることである」との、攻撃的現実主義の考えを示した。ミアシャイマーを代表とする攻撃的現実主義者は、モーゲンソーの唱えた古典的現実主義との違いについて、「大国は本来侵略的である」のではなく、「大国は生き残りを確実にするために、他国との相対的な力を最大化することを追求する」と説明する。要約すれば、国家はライバル国との力関係において、均衡を確保するのではなく、相対的優位を保とうとする、との考えである。そこにおいて、防衛的現実主義も攻撃的現実主義も、国際システムの構造を考え方の根拠にしている。即ち、国際システムの構造は無政府状態であり、自国の安全は自国のみに頼らざるを得ないとの考えである。

現実主義の3つの類型は、時代背景を通して見れば、いずれも的を射ていると言える。つまり、1960年代までの冷戦前期は、まさに東西が互いの陣営の拡大を競った時代であり、米ソ共に覇権を求めた。その後、1980年代末までの冷戦後期は、各国が、東西のバランスを求める、つまり、自国の安全を維持することに努めた時代であり、米ソ共に自陣営の防衛に努めた。これらに対し、攻撃的現実主義は、多極化し不安定な現在の時代を象徴している。近年、中国外交が攻撃的現実主義に移行しているとの見方をする論説が多くみられる。アメリカも中国も共に、国際政治において現実主義的政治を遂行していくと仮定すれば、それは必然的に攻撃的現実主義が対峙する時代となることを想定すべきであろう。つまり、アメリカも中国も、「相対的にパワーを最大にする」ことを目指すと考えるべきなのである。現在における世界のリーダー国であるアメリカと、相対的なパワーを強めようとする中国との間のパワーゲームは、「グローバルコモンズの自由」対「アクセス拒否」の形で、今後幾つかの戦略的に重要な地域・海域で顕在化していくことは間違いない。状況によっては、アメリカと中国の間で、「グローバルコモンズの自由」と「アクセス拒否」の主張が入れ替わることもあるだろう。

CNAS リポートは、アメリカにグローバルコモンズの自由を確保するためのグローバルレジームの構築を目指してリーダーシップをとると共に必要なハードパワーを備えることを求め、一方において、インド洋を21世紀のハートランドと称し、そこにおける安全保障については、市場の原理を取り入れたような地域的枠組みに依拠することを推奨している。近年、自由主義や現実主義に与せず、敵対国以外、つまり友好国のみならず競争相手国とも利益を共有して安全保障共同体を作り上げることができるとする、構成主義の考え方が生じている。CNAS リポートは、アメリカの外交に構成主義的戦略を求めているのだろうか。中国が攻撃的現実主義を追求する時代を想定した場合、はたして、地域的枠組みがグローバルコモンズの自由を確保することにつながると言えるのだろうか？

(文責：秋元一峰、海洋政策研究財団主任研究員)

(主要参考文献)

1. Center for New American Security, *Contested Commons: The Future of American Power in a Multipolar World*, Washington, DC, January 2010.  
[http://www.cnas.org/files/documents/publications/CNAS%20Contested%20Commons\\_1.pdf](http://www.cnas.org/files/documents/publications/CNAS%20Contested%20Commons_1.pdf)
2. H.J. マッキンダー、曾村保信訳『デモクラシーの理想と現実』(原書房、1985年)。(H. J. Mackinder, *Democratic Ideals and Reality*, 1919.)

3. ニコラス・J.スパイクマン、奥山真司訳『平和の地政学』(芙蓉書房出版、2008年)。(Nicholas J. Spykman, *The Geography of the Peace*, 1944.)
4. コリン・グレイ、ジェフリー・スローン、奥山真司訳『進化する地政学』(五月書房、2009年)。(Collin S. Gray & Geoffrey Sloan, *Geopolitics, Geography and Strategy*, 1999)
5. US Naval Intelligence, *A Modern Navy with Chinese Characteristics*, August 2009
6. ジョン・J・ミアシャイマー、奥山真司訳『大国政治の悲劇』(五月書房、2008年)。(John J. Mearsheimer, *The Tragedy of Great Power Politics*, 2001)

## 海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F  
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)